

基調講演(鳥取県会場)

テーマ： 山陰地方の古代高層建築
- 青谷上寺地の「楼観」から出雲大社大型本殿まで -

講師： 鳥取環境大学 教授 浅川 滋男



略 歴

昭和54年 京都大学工学部建築第2学科卒業
昭和57年～59年 中国留学(北京語言学院 同済大学)
昭和62年 京都大学大学院工学研究科博士課程修了 奈良国立文化財研究所研究員
平成4年 京都大学博士(工学)
平成6年 京都大学大学院人間・環境学研究科併任助教授
平成10年 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室長
平成13年 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科教授(現在に至る)

研究活動・著書他

考古学・歴史学・民族学のデータを縦横に駆使した建築史的調査研究を展開すると同時に、地域に密着した文化財建造物/遺跡の保存・修復・再生に取り組む。以下、主要業績。

著書： 『住まいの民族建築学 - 江南漢族と華南少数民族の住居論 - 』1994(単著)、 『先史日本の住居とその周辺』1998(編著)、 『離島の建築』2000(単著)、 『北東アジアのツングース系諸民族住居に関する歴史民族学的研究』2000(編著)、 『埋もれた中近世の住まい』2001(共編)、 『出雲大社』2006(単著)、 『「楼観」再考』2007(単著)他多数。

報告書(浅川研究室)： 『河本家住宅』2005、 『倉吉の町家と町並み - 重伝建地区外側の景観をいかに保全するか - 』2005、 『仮設構法による巨大露出展示空間の創造』2005、 『市町村合併にもなう文化財の地域問題』2006、 『国史跡「鳥取藩主池田家墓所」の整備に関する実践的研究』2006、 『尾崎家住宅』2007、 『加藤家住宅の実験』2007など。

講演内容

山陰地方では近年、重要な建築関係遺跡の発見が相次いでいる。今回の講演では、まず鳥取市の青谷上寺地遺跡(弥生時代中後期)を取り上げる。弥生人の脳が発見されたこの遺跡では、環濠や旧河川と目される低湿地からおびただしい数量の木器・木製品が出土しており、建築部材と推定される材の総数は7000点を超える。日本全国をみわたしても、これだけの量の建築部材が出土した先史時代の遺跡は他に例がない。鳥取県埋蔵文化財センターは2005年度から出土建築部材の整理分析の基礎作業を開始し、2006年度から建築部材データベースのインターネット上公開を進めている[<http://db.pref.tottori.jp/aoya-iseki.nsf>]。このデータ公開の過程で、弥生時代最長の柱材(残存長724cm)が確認され、魏志倭人伝にいう「楼観」の柱材である可能性が高まり、浅川研究室がその復原CGの制作に取り組んだ。

一方、鳥根県の出雲大社境内遺跡では2000年度からの発掘調査により、巨大な本殿跡が姿をあらわした。木材3本を束ねて直径約3メートルの柱とする様は「金輪御造営差図」に描かれた古代大社本殿の平面と酷似しており、調査当初は平安時代末期の遺構と目されていたが、科学的年代判定の成果により、鎌倉時代宝治年間の本殿遺構である可能性が高まっている。顛倒と造営を繰り返した古代大型本殿の伝統を継承する最後の遺構と考えられよう。この大型本殿遺構についても、浅川研究室が全力をあげて復原に取り組み、CGと模型を完成させた。以上、山陰地域で発見された2つの高層木造建築について、復原の成果をグラフィックで紹介したい。